

能力開発セミナーをご利用いただいた企業の声

一般社団法人 北海道ビルダーズ協会 様

建築大工の就労者数は、この1980年から2020年の40年間に7割も減っています。

更に、2030年には2020年比で3割以上減の可能性が見えてきています。

原因として、新規就労者の絶対数が減る一方、せっかく入職しても辞めていく者も多い状況です。

そのため、当協会では大工育成委員会を立ち上げ、北海道内の工務店経営者に対する大工の社員化や教育プログラムを提供し、大工の育成支援を実施しています。その支援内容のうち、入職後3年目までの新人大工の実技指導に関して、ポリテクセンター北海道と協議の上、必要なカリキュラムを選択し、OFF-JTの訓練により、新人大工としての知識・技能の習得を支援しています。



受講して
いただいた
コース

- ▶ 鑿・鉋の仕立て研磨実践技術
精度や加工効率を満たすための刃物の研磨方法及び研磨作業の性能評価するための木材加工技能・技術を習得するコース
- ▶ 実践的な木造軸組み工法の加工・組立技術
木造軸組工法における実践的な加工・組立に必要な知識及び技術を習得するコース

他11コース

人材育成担当者の声

大工育成委員長 首藤 様

●人材育成に関してどのような課題がありましたか？

大工の人材育成は各工務店の責任において実施していましたが、昨今の工務店経営状況や指導者大工の不足から社内での教育が難しくなっていることが共通の悩みでした。また、木造在来工法、ツーバイ工法など各工務店の業務内容に偏った育成の実施から普遍的な大工技能が身につかないことも課題となっていました。

●セミナーを利用していかがでしたか？

全てのセミナーが実践的かつ充実した内容になっております。

道具の手入れから始まり木造住宅建設に合わせて順序立てられたセミナーで大工業務の基礎をしっかりと学ぶことが出来ます。また日常業務で習得することが出来ない大工業務以外の電気、給排水設備なども実技指導を通じて必要性を理解し、日常業務の効率も上がりました。技能習得もさることながら同世代の仲間がセミナーに参加しているので、自分の不安要素を気軽に話合う反面、仲間と比べ切磋琢磨することから3年間のセミナーは大工職への定着にも有効と考えます。受講生が協力して課題に取り組むので、コミュニケーションの大切さも学び、「聞く」「話す」など自信をもって積極的に上司と作業ができるようになりました。

●ポリテクセンター北海道に要望はありますか？

このような実践的な育成システムを実施できる環境は大変貴重となります。特に技術的職業は実践と基礎知識が大切なことから、今後とも大工技能の教育機関としてセミナーのさらなる充実と実施を要望します。



大工育成委員長 首藤 様



セミナーの様子